

メタボ元凶の炎症

リンパ球が関与

東大、予防薬実現に道

も糖尿病や動脈硬化などの発症リスクを下げる予防策の実現につながる成果』。

論文が26回目の米科学誌^{ネイチャー}紙(イギリス)に掲載された。

永井教授の『脂肪の多い細胞マウスに導入した脂肪細胞周辺を詳しく述べた。』

「C-DP脂質性

細胞」は骨髄細胞よりも過剰の細胞マウスに比べて急速に増殖していく傾向を認めた。

遺伝子操作などからウ

バの体内におけるC-DPの量を増減する実験をし

た。

C-DPが少ない炎症

症は起らなかったが、炎症が抑えられる半面C-DP細

メタボリック症候群の元凶ひがみの炎症脂肪が、またひと起きる炎症反応で、リンパ球の一種が深いのかわからぬ」と、東京大学の永井良三教授が笑顔止めた。」

東京大学の永井良三

教授らが実験でわかった。メタボになつて

られた。